



天を造り出し、
これを引き延べ、
地とその産物を押し広め、
その上の民に息を与え、
この上を歩む者に
霊を授けた創造主は
こう仰せられる。
わたし、主は、
義をもってあなたを召し、
あなたの手を握り、
あなたを見守り、
あなたを民の契約とし、
国々の光とする。

一般財団法人 ジェネシスジャパン 2024年8月30日
ニュースレター 第64号
〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡 3652-306-3
電話 029-292-9621 ファックス 03-6862-8340
メール info@genesishjapan.com ホームページ genesishjapan.com



ノアの洪水と 日本列島

ジェネシスジャパン会長
宇佐神 実

和歌山県すさみ町
フェニックス褶曲

聖書に基づく日本列島の形成

日本列島は、いつどのように出現したのだろうか。ノアの洪水と関係あるのだろうか。そのような疑問を抱いたことはありませんか。

博物館に行くと日本列島の起源についての展示があり、数億年前にユーラシア大陸から分断したのがその始まりなどと説明されています。

これは「現在は過去を解く鍵である」という斉一説の視点から推測された回答で、聖書に基づくものではありません。進化論に立つ科学者は、創世記1-11章の歴史

を神話だと思い込んでいるため、それを考慮することがないからです。また、クリスチャンでも進化論の結論を信じてしまうと天地創造やノアの洪水を文字通りには信じられなくなります。それは進化論の答えと矛盾するからです。

聖書に記されている実際の歴史だと受け止めて初めて地球がどのように変遷してきたかを知ることができます。これを行っているのが、聖書の創造に立つ科学者で、「聖書は過去を解く鍵である」と考え、聖書の記録に基づいて科学的検証を行っています。

今回は、聖書の創造の視点から

日本列島の起源を考察してみましよう。

大洪水の経緯

まず、日本列島が形成される前の出来事として知っておくべきことを説明します。

天地創造の時、パンゲアと呼ばれる大陸が1つだけ存在し、現在の大陸がジグソーパズルのように組み合わさった形でした。それが紀元前2350年頃に起こったノアの洪水の時に、数ヶ月で大陸がほぼ現在の場所へと移動しました。

大洪水の最初の150日は水か



さが増して地球全体が水没するまでの期間で、後の220日は水が退いて、陸地が乾くまでの期間です。大洪水が始まった時「巨大な大いなる水の源がことごとく張り裂け（創世記7:11）」と記されていて、それまで1枚しかなかったプレート（地球を覆う岩盤）に亀裂が生じ、現在観測される十数枚の主要プレートに分かれたと考えられます。これに伴って火山や海底火山が噴火し、地下水が噴出し、地震や津波などが発生するなど天変地異が地球を襲ったでしょう。

最初の150日のうちの前半は、標高の低い地域から水に飲まれていきました。この頃堆積した地層は、進化論では古生代カンブリア紀～古生代石炭紀に堆積したと解釈されますが、聖書に基づいて考えるとノアの洪水の初期に堆積した地層で、主に水生生物の化石が発見されます。グランドキャニオンには、この時期の堆積層が見られます。それによるとこの時期だけで千数百mの深さの地層が堆積

したのがわかります。¹

さらに150日の後半は、陸地がどんどん水に覆われ、最終的に地球全体が完全に水没するまでの期間です。この頃に堆積した地層は、進化論ではおおよそ古生代ペルム紀～中生代白亜紀の地層と解釈されています。これらの地層には、水生生物だけでなく陸生生物の化石が含まれ、恐竜の化石も発見されます。¹

ノアの洪水後半で水が退いていった大きな原因は、急速な大陸移動にあると考えられます。この時期も膨大な水の流れによって浸食と堆積が起きました。この時期に堆積した地層は、進化論では新生代第三紀～新生代第四紀と解釈されますが、聖書に基づいて考えるとノアの洪水の退水期のものと理解できます。¹

熱暴走沈み込み理論

地球物理学者のジョン・バウムガードナーは、ノアの洪水の記録

に基づいてプレートの熱暴走沈み込み理論を提唱しました。これは海洋プレートが大陸プレートに急激に沈み込むことで、プレートとプレートが擦れ合う面が摩擦で溶けて液状となり、海洋プレートが一気にマントルへと沈み込む現象です。彼はこのメカニズムによって大陸が移動したと考えました。²

プレートの様子はテーブルクロスに例えるとわかりやすいでしょう。テーブルの上に並んだ食器などが、テーブルクロスを引っ張ると一緒に動いていくように、プレートの上に乗った大陸や堆積層もそのまま一緒に動きます。現在では数cmしかプレートは動いていませんが、ノアの洪水の時にはプレートの熱暴走沈み込みによって、プレートが急速に引っ張られ、大陸や堆積層もそれに伴って移動し、ほぼ現在の地球の姿となりました。

日本の土台にある付加体

日本列島は、図1にあるように4つのプレートがぶつかった位置にあります。太平洋プレートが北米プレートに、フィリピン海プレートがユーラシアプレートに沈み込んでいます。ここに日本海溝や南海トラフなどがあります。

ノアの洪水の後半、太平洋プレートやフィリピン海プレートに乗って急速に運ばれてきた堆積層はどこへ行ったのでしょうか。北米プレートやユーラシアプレートの下と一緒に沈み込んだのではなく、はぎ取られ、北米プレートやユーラシアプレートの上に押し付けられていったのです。このように海洋プレートから押し付けられ

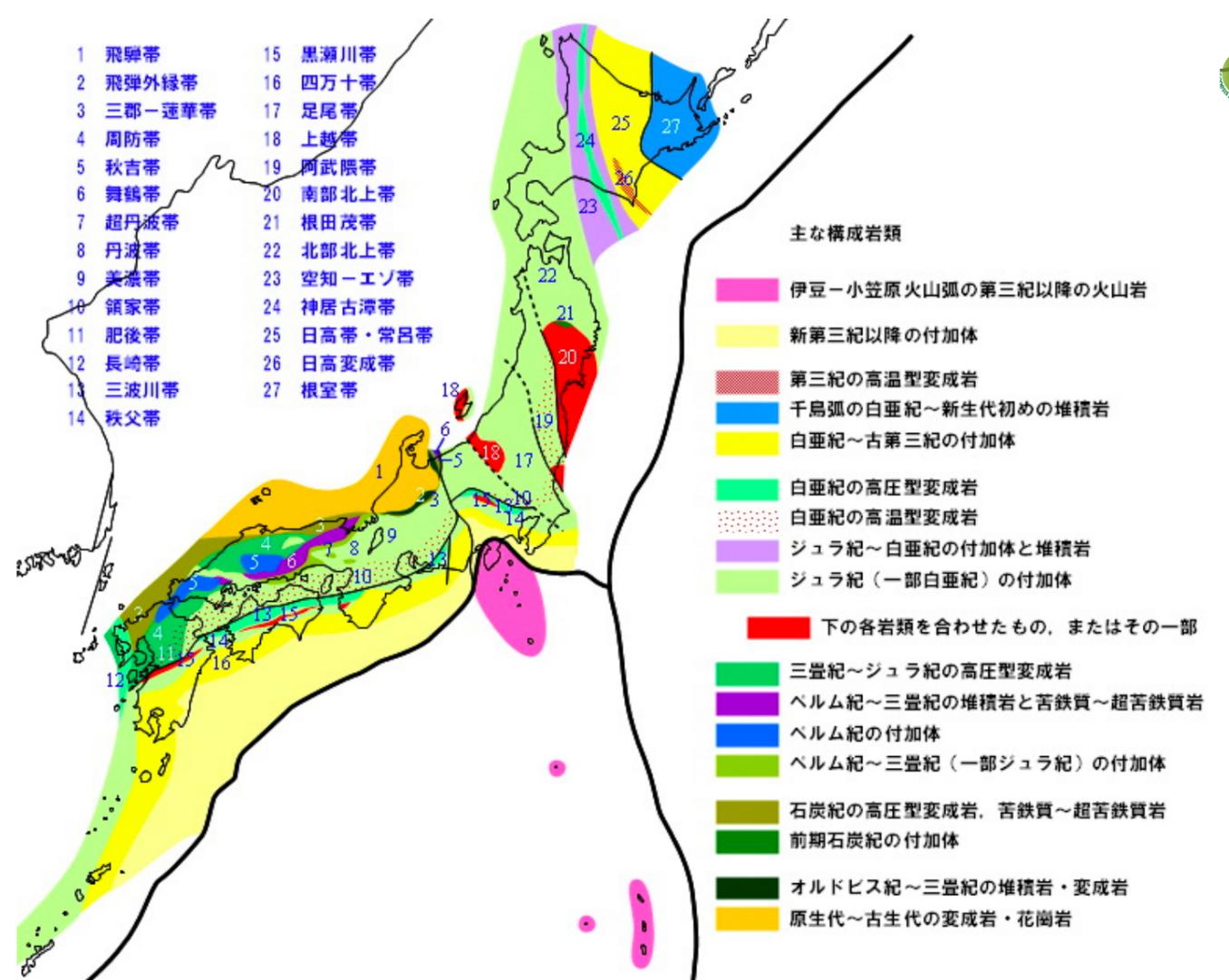


図2. 日本列島の地質と構造：日本列島の土台のかなりの部分が付加体でできていることがわかる。

出典：産総研地質調査総合センター <<https://www.gsj.jp/geology/geology-japan/geology-japan/index.html>>

て大陸プレートに乗せられた部分を付加体と呼びます。実は、日本列島の土台はほぼこの付加体で形成されているのです。

図2を見ると、まず右側に進化論の年代に基づいて地層が色分けされています。そしてフィリピン海プレートとユーラシアプレートがぶつかる日本列島の西側では、全体的に北西から南東にかけて古生代～中生代～新生代の付加体が見られます。これは、聖書に基づいて理解すると、大洪水前半初期の堆積層～大洪水前半後期の堆積層～大洪水後半の堆積層の付加体となります。ノアの洪水の後半にフィリピン海プレートの上に乗って運ばれてきた堆積層も、ユーラシアプレートの上にあった堆積層

もまだ堆積して間がないため比較的柔らかい状態にあったと考えられます。ですから付加体が押し付けられたことで地層に褶曲したことが考えられます。それは、雑誌を数冊重ねて横から押し出すとグニャリと歪むのと同じです。和歌山県すさみ町には、世界的に有名な天鳥の褶曲やフェニックス褶曲が見られます。こうして褶曲が起こった後で徐々に固まり、非常に硬い岩石となったと考えられます。

このようなプレートの急激な移動に伴って大洪水の膨大な水が退いていきました。その時に、堆積層は浸食され、日本の各地はほぼ現在の姿に形成されていきました。日本各地に見られる扇状地も、このような浸食によって運ばれた

土砂が扇状に堆積したものだと考えられます。

能登半島から島根県にかけては、付加体ではなくノアの洪水の時に押し上げられた花崗岩マグマが冷え固まって形成されたと考えられます。詳しくはニュースレター63号で触れていますが、他にも花崗岩が見られるところは同様の形成過程があったと考えられます。

伊豆半島や丹沢山地は、フィリピン海プレートに乗って移動してきましたが、ノアの洪水の時に海底火山の噴火で形成された地形だと考えられます。

小笠原諸島の硫黄島沖では、2023年10月下旬に海底火山が噴火し、南北約400mの新しい島

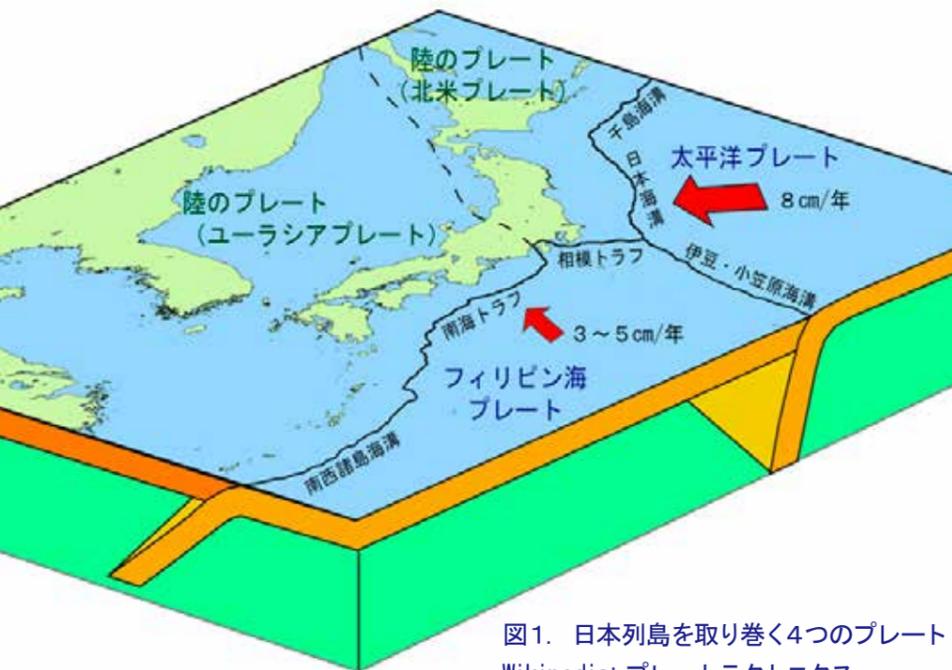


図1. 日本列島を取り巻く4つのプレート
Wikipedia: プレートテクトニクス



が出現しました。ノアの洪水の時は海底火山の活動ははるかに活発だったでしょうから、フィリピン海プレートに乗っている伊豆半島や丹沢山地の地域もそのようにして出現し、ユーラシアプレートと衝突してそのまま残ったと考えられます。³

氷河期の日本列島

聖書的創造の視点から考えると、大洪水の後約700年にわたって、氷河期になったと考えられます。氷河期についてはニュースレター21号で詳しく触れていますが、氷河が最も発達した時には、高緯度地方はほぼ完全に氷河で覆われ、その厚さは平均700mだったと推定されます。その分の水が氷河となって陸地に乗ったため海面は現在よりも下降し、日本は大陸と地続きになっていたと考えられます。

日本の山間部で氷河地形が発達したのはこの時期です。槍ヶ岳や山崎圏谷なども氷河に削られてできた地形です。そして氷河期の終息に向けて海面が上昇し、日本列島は大陸と切り離されて現在の姿になりました。

日本列島と火山活動

こうして日本列島の骨格ができている中で、各地で火山噴火が起こってきました。その代表的な例は富士山で、玄武岩マグマの噴出によって形成され、現在の姿になりました。近年も噴火によって昭和山など新しい山ができたり地形が変わったりしています。ノアの洪水後の火山活動は今よりも非常に活発だったと考えられますから、これも現在の日本の地形を形成する要因となったでしょう。

今後の研究に向けて

日本は4つの主要プレートの境に位置するため、地震や噴火などによる影響を受けます。ノアの洪水後柔らかかった地層が硬い岩石層となり、それに地震、噴火、プレートの力などが加わることで断層もたくさん生じてきたことが考えられます。

地質学者たちは日本列島を調査していて、貴重なデータを蓄積しています。それらのデータを聖書に基づいて考察することで詳しい理解が進むことでしょう。

みなさんも自分の住む地域とその地形が、どうノアの洪水と関係するかを考えてみませんか。

参考文献

1. 宇佐神実、「メガシーケンスからわかる大洪水の変遷(2)」ジェネシスジャパンニュースレター45号.2020年10月1日
<<http://genesisjapan.com>>
2. ドン・バットン「『創造』の疑問に答える」バイブル&グリエーション2018年11月11章大陸移動については? 192-195頁
3. 「硫黄島の沖で新たな島が出現！」

お知らせ

「創造主と共に生きて」

好評発売中

名誉会長
宇佐神 正海自伝
全35ページ
定価250円+税



献金のお願い

国内外に聖書的創造を伝えるため、ご支援をお願いします。

ジェネシスジャパン

ゆうびん振替 00350-7-3364

ゆうちょ銀行 10650-52405611

講義・イベント予定

■網走セミナー

日程：10月10-11日

会場：グレースチャペル(網走)

詳細はお問い合わせください

■秋の創造セミナー

日程：10月17-19日

会場：ホテルグリーンプラザ白馬

(長野県)

創造を伝える働き人養成講座

【募集要項】

聖書を創造主の言葉と信じる方。

イエス・キリストを救い主と信じる方。

創造を信じる大切さを伝えたいと願う方。

講座の目的と概要

- * 創造主のみわざのすばらしさに感動し、その感動を伝える働き人が起こされる。
- * 創造論の講演に加え、創造論の背景となる知識や考え方を少人数で学ぶ。
- * 創造を伝えるために役立つ資料の提供。
- * 修了証授与(全日程参加者)
- * 創造論を用いての個人伝道、CSや教会でのメッセージ、講演ができるよう協力。

(参加費等はお問い合わせください)

詳細はジェネシスジャパンまで